

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

「たまごがゆく
～たまごのファクトブック～」を公開
(畜産総合対策部、広報・調査部)

2面

「空飛ぶサクランボ」
山形から即日大阪へ
(山形県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

畜産総合対策部
広報・調査部

「たまごがゆく〜たまごのファクトブック〜」を公開

全農公式ホームページで7月17日から公開

たまごの基礎情報をまとめたファクトブック

たまごがゆく〜たまごの
ファクトブックはこちら

全農は、たまごの生産・流通に関する基礎情報をまとめた「たまごがゆく〜たまごのファクトブック〜」を7月17日に全農公式ホームページで公開しました。たまごが食卓に届くまでの流れをはじめ、たまごの栄養や徹底した衛生管理の仕組みなどの基礎情報を一冊にまとめています。

たまごは日々の生活に欠かせない身近な食品ですが、近年は物価上昇や高病原性鳥インフルエンザの発生などを背景に、たまごの価格や供給状況への関心が高まり、安定供給の重要性が改めて認識されています。

また、日本には「たまごを生で食べる」という世界でも珍しい食文化が根付いています。日常的に安心してたまごを生食できるのは、生産から流通、販売に至るまで、多くの関係者が徹底した衛生管理に取り組んでいるためです。

本ファクトブックは、たまごの生産の現状や全農グループの取り組みについて理解を深めていただくための資料として制作しました。

全農では今後、「青果物」「肥料」「生乳」などの事業を紹介するファクトブックを随時公開予定です。

「空飛ぶサクランボ」山形から即日大阪へ

JALと阪神梅田本店関係者が現地で収穫

山形県本部



飛行機に積み込まれる「やまがた紅王」

山形県本部は6月19日、JALグループの㈱ジェイエアおよび阪神梅田本店と連携して、朝収穫したばかりの県産サクランボ「やまがた紅王」40㌔を空輸し、大阪市の阪神梅田本店で即日販売しました。

本企画はジェイエア運航便で利用できる、空輸と前後の陸送をパッケージにした配送サービス「J・A・R直轄サービス」を、山形県産サクランボで利用したいという阪神梅田本店の要望で実現しました。

早朝4時30分から、阪神梅田本店関係者、JAL社員、JAさくらんぼひがしね関係者、山形県本部職員が、東根市内の園地で「やまがた紅王」を収穫・選別して山形空港へ陸送、午前8時50分に山形空港を飛び立ちました。

正午には、阪神梅田本店で「空飛ぶ朝採れさくらんぼ」として陳列され、ジェイエアの客室乗務員も加わって販売しました。販売前から来店者の列ができる盛況ぶりです、わずか3時間ほどで完売しました。

購入者からは、「今朝、山形県で収穫されたサクランボと聞いて驚いた」「産地に行かなくても新鮮なうちに食べられるのはとても魅力的」といった声が聞かれ、産地直送ならではの鮮度とおいしさを実感いただく機会となりました。



阪神梅田本店で販売

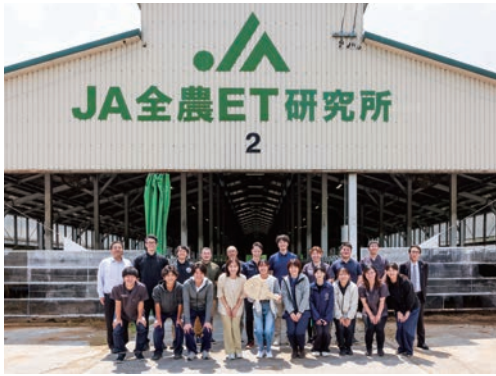
広報・調査部
畜産生産部

石川佳純さんが全農ET研究所を訪問

研究施設を見学し、職員との交流を深める

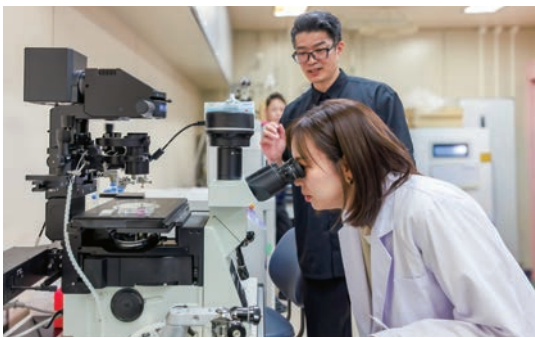
全農オフィシャルアンバサダー・石川佳純さんが6月30日、北海道土幌町にある全農ET研究所を訪問しました。

石川さんとET研究所の皆さん



今回は、全農オフィシャルアンバサダーとして活躍される石川佳純さんに、全農が持つ最先端技術に触れていただくため、研究施設であるET研究所を訪問いただきました。はじめに出田所長からET研究所の役割や牛の受精卵移植技術など研究内容について説明を受けました。石川さんは熱心に耳を傾け、職員からの説明にうなずきながら質問もされていました。

その後、場内施設を見学したのち、研究室では顕微鏡で牛の受精卵を観察するなど、普段触れる機会のない研究現場を訪ね感動されていました。見学後は、職員と昼食会を開催しました。地元産の「十勝ナイタイ和牛」や「土幌ポーク」を使用したお弁当を囲みながら終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。石川さんには今後も全農オフィシャルアンバサダーとして、食と農の魅力発信にご協力いただきます。



顕微鏡で受精卵を観察

麦類農産部

今年も国産大豆商品発見コンテスト開催

児童が楽しく学び魅力を知る機会に

全農は消費拡大活動の一環として、一般社団法人全国米麦改良協会と共催し、全国の小学生を対象に、7月10日から9月13日まで「国産大豆商品発見コンテスト」を開催しています。

本コンテストは、大豆製品の原料産地に目を向けることで国産大豆の魅力を楽しむ学び、将来の消費行動につなげることを目的とした食育・普及型の取り組みです。応募内容は、「国産大豆商品を見つける課題」と「国産大豆商品の魅力を伝える課題」の2つで、豆腐や納豆、味噌・醤油など身近な食品を題材としています。

今年で3回目となり、昨年度に引き続き個人の部と団体の部を設け、夏休みの自由研

究や小学校での学習としての活用を推奨しています。上位入賞者・団体には国産大豆商品を贈呈するほか、応募者全員に参加賞を用意しています。全農は本コンテストを通じて、国産大豆の消費拡大を図るとともに、子どもたちの国産農畜産物への関心を高め、持続的な需要の創出につなげていきます。

コンテストの
応募はこちらから



国産大豆商品発見コンテスト
2026.7.10(金)~9.13(日)

普段よく目にする大豆の商品が大豆から作られているって知っていますか？
そんな中でも国産大豆をつかった商品を見つけて、日本の大豆を応援しよう！

お店で国産大豆を使った商品を探して応募しよう！

賞状・副賞	入賞	賞状・副賞
最優秀賞 国産大豆商品 5,000円相当の 詰め合わせ	入賞 国産大豆商品 3,000円相当の 詰め合わせ	賞状・副賞 国産大豆商品 詰め合わせ 10名まで

応募者全員に参加賞もあるよ！

応募内容

課題1 国産大豆を使った商品をつくって、魅力を伝えよう！
スーパーなどで国産大豆がつかわれている商品を見つけて、応募用紙にたくさん書こう！

課題2 国産大豆を使った商品をつくって、魅力を伝えよう！
国産大豆を使った商品のよいところや好きなところを、絵や文章で表現しよう！

対象学年 小学1年生～6年生

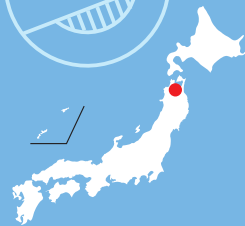
応募部門 個人部門、団体部門

応募方法 課題1・課題2のどちらかまたは両方を
応募用紙に記入して応募しよう！
応募用紙は、国産大豆商品発見コンテストの公式サイトでダウンロードできるよ！

特設サイトはこちら！
<https://www.jnpp.or.jp/contest/>

主催：一般社団法人全国米麦改良協会 共催：全国大豆産地協議会

コンテストを紹介するチラシ



令和8年度販売目標300億円に

野菜、花の適正価格の形成へ一丸



販売目標額300億円を確認した販売懇談会



あいさつをする乙部会長

青森県本部は6月16日、青森市内のホテルで「令和8年度やさい・花き販売懇談会」を開きました。産地の現状や課題、消費地の販売動向について情報共有し、令和8年度の販売目標額を300億円（野菜295億円、花き5億円）に設定し、生産者の所得向上に取り組むことを確認しました。

系統共販の拡大に 尽力した6社表彰

今年は来賓として小谷知也副知事をはじめ、全国の青果、花き市場、加工会社、県内農協関係者などから約210人が参加しました。

乙部輝雄県本部運営委員会会長は、生産・流通コストの上昇や鳥獣被害の頻発、気候変

動による収量減や品質低下、

中東情勢の悪化に伴う資材不足・価格高騰などの課題に触

れ、「コストを反映した適正な価格形成に向け、各取引先の

協力を得ながら、引き続き理解醸成に取り組む」とあいさつ。

系統共販の拡大に尽力した取引会社6社（青果市場4社、

花き市場1社、加工会社1社）を表彰し功績をたたえました。

気候変動への対応 輸送の効率化に力

県本部やさい部は重点実施策として、高温・干ばつなどの気候変動に対応した栽培技術の検証や、実需者に対する生



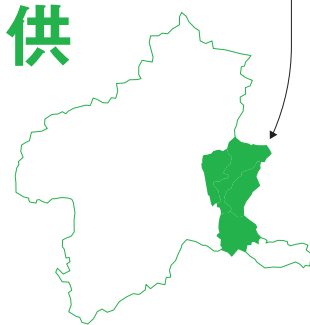
目標達成に向けたガンバロー三唱

産・流通コストを反映した価格形成への理解醸成、効率的な輸送体制の確立などに取り組む方針を報告しました。

最後に出席者全員がガンバロー三唱を行い、目標達成に向けて一致団結しました。

県本部では今後も、コスト高への理解を消費者に促す取り組みを進めるとともに、持続可能な農業と地域発展の実現に向けた活動を強化していきます。

GAP手法を 取り入れ啓発活動 安全・安心な農畜産物の提供



群馬県のJAにつたみどりは、2011年に群馬みどり農協と新田郡農協の合併により発足しました。桐生市、みどり市、太田市、伊勢崎市の一

部を事業区域とし、出荷物はナス、キュウリ、トマト、ホウレンソウなどの施設野菜や、ヤマトイモ、ブロッコリー、エダマメ、レタスなどの露地野菜を京浜向

け中心に出荷しています。

安全・安心な野菜生産へ

同JAは「安心して食べられる農産物」の提供を目指し、食品安全、環境保全、労働安全、農場経営管理、人権保護の5つを柱とするGAPに基づく営農支援を強化しています。GH農場評価員やGAP内部監査員の資格取得を進め、専門性の高い職員育成にも力を注いでいます。

関係機関と連携した研修や指導の結果、21年にはレタス生産者で構成される「新田みどりGレタス組合」が県内JAとして初めてGLOBAL G.A.P.認証を取得し、レタスの安全性と品質が世界基準で証明され、生産者と取引先との信頼関係もより強固になりました。



JAの出荷施設でのGLOBAL G.A.P.審査



定期的な県域団体事務局会議



関係者による生産者の施設の審査

GAP認証の県域展開と 取り組み強化

さらに25年には群馬県本部

を事務局とする県域団体事務局へ参画し、JA域を越えた県域規模の認証支援体制下での取り組みに移行しました。県域団体事務局は、GLOBAL G.A.P.認証取得に取り組んで

きた県内2JAの職員および生産者を中心に、全農やJA群馬中央会などの関係機関を構成員としています。定期的な事務局会議を通じ、取り組み上の課題共有やその対応に向けた管理手法などの統一化により、効率的な認証支援体制が構築され、レタスに加えキャベツへも認証範囲を拡大でき、さらに広域化したことで、1人当たりの認証審査費用の圧縮にもつながっています。

現在は労働者の人権と安全に重点を置く「GRASP（グラスP）認証」の26年度取得を目標に準備を進めており、引き続き取り組みの強化を継続していきます。

概要	2026年2月28日 現在
正組合員数	3455人
准組合員数	1万1687人
職員数	274人
販売品取扱高	127億1千万円
購買品取扱高	60億9千万円
貯金残高	1891億9千万円
長期共済保有高	2414億6千万円
主な農産物	キュウリ、ナス、トマト、レタス、ヤマトイモなど

山形県の生産現場に密着！ 総勢50人の仲間が支える サクランボ

全農では、農繁期の人手不足を解消するとともに、農業に関わる関係人口を増やし、産地を次世代へつないでいくことを目指して、「91農業」の普及に力を入れています。農業以外の人に向けて、今の生活スタイルはそのままに、1割だけ農作業や農業バイトを呼びかける91農業。サクランボの生産日本一の山形県。その生産現場を支える91農業最前線を農ジャーナリストの小谷あゆみさんがレポートします。

【広報・調査部】



サクランボ農家の軽部賢太さん(左)と
小谷あゆみさん(右)



早起きは三文の徳！
朝5時の
収穫作業で副収入

山形県寒河江市。サクランボの大産地ですが、収穫期間のピークはわずか2週間ほどと短いことから、短期間に集中して多くの人手が必要になります。しかも収穫から、選別、箱詰めまでほとんどが手作業のため、この時期はバイト人材の取り合いになるほど。軽部さくらんぼ園でもこうした課題が、91農業の人材を受け入れるきっかけでし



休憩時間に会話を楽しむ悦子さん(中央)と小谷あゆみさん(右)



箱詰めされた山形県産
サクランボ「紅秀峰」

た。早朝5時、果樹地帯にあるサクランボのハウスに、20代から30代の男性が次々と集まってきました。サクランボの実気温が上がると傷みやすくなるため、収穫は7時半まで

の2時間半が勝負です。10人ほどが2人ほどの脚立に上がり、大きな「紅秀峰」の木を取り囲みます。指揮を取るののは軽部さくらんぼ園の軽

株式会社 軽部さくらんぼ園
2024年11月に設立

会長：軽部賢一さん(76)、代表取締役：軽部秀和さん(46)、専務取締役：軽部賢太さん(人材部門を担当)、社員は母の悦子さんを含む2人。法人化し、規模拡大にシフト。労働条件を整え、今後は社員も増やしていきたい。



農ジャーナリスト・
フリーアナウンサー
小谷あゆみさん

石川テレビ放送のアナウンサーを経て現在はフリー。野菜を作るアナウンサー「ベジアナ」として家庭菜園歴は25年。農ジャーナリストとして、都市農村交流や、生産と消費のフェアな関係をテーマに全国で取材、講演、シンポジウムでの司会やコーディネーターなどを行う。日本農業新聞ほかでコラム連載中。農林水産省・世界農業遺産等専門家会議委員なども務める。

部賢太さん(40)。社員1人に加えて軽部さんの地元の友達や後輩もいます。ラジオが流れる中、時折おしゃべりや笑い声が飛び交います。30分ほどで摘み終えると、次の木に移っていきます。皆さん自分の勤めや仕事を持っていますが、期間限定で友達の農園を手伝って副収入も得られます。7時半になると、各々作業を終えて、出社していきました。

と箱詰め作業別に大きく2つのゾーンに分かれています。一家総出の中、大活躍するのは母の悦子さん(71)です。

また、農作業受託会社に入ってもらったため、軽部さんが工夫したのは、作業を分けて専門化することでした。サクランボのサイズはMから4Lまで5段階あり、専用の「選果板」を使って選別し、赤い色づきの割合も見極めます。以前は、一人が選別から箱詰めまでをしていましたが、分業化により初心者は選別に、熟練の人は箱詰めに専念

できます。

この方式により初心者に選別ミスがあっても、箱詰め段階で熟練者が再チェックするため、品質を保ちながら効率が大幅に向上。出荷量は一日約300キロから500キロへと増えました。

働く人は、30年間毎年手伝いに来るご近所さんから受託会社に登録している人など、10代〜80代まで、8割は女性です。お昼休憩の1時間のほか、10時と15時の30分間はみんな一緒に休憩してコミュニケーションの時間です。

パートさんは実は顧客！
応援団50人がいる強さ

こうした工夫が身を結び、軽部さくらんぼ園はこの5年間で栽培面積を約1・5倍に拡大しました。先代までは約2畝でしたが、離農する園地を引き受け、昨年と今年それぞれ約40アールずつ規模を拡大し、現在は合計約3畝です。

全農山形で91農業を担当する佐藤大輔さんは、「温暖化の影響で収穫適期はさらに短くなり、人手確保の難しさに拍車をかけている。軽部さんの人柄もあり、人が集まる農園を築いているのは頼もしい。91農業は、これからの産地には欠かせない仕組みになっている」と話します。

収穫現場と作業場を合わせて延べ50人。機械化しにくく、人手がかかるサクランボ生産は難しい半面、軽部さんの取り組みには希望も感じました。

「生産工程を知った上で買



談笑しながら休憩する参加者

ってくれるのはうれしく、自信にもなります」と軽部さん。働く仲間は実は顧客であり応援者でもあったのです。こうしたつながりの深い層を持っている農業こそ強い農業です。生産者と消費者がともに働き交流することで、お互いの意識が変わります。単なる「雇い主と働く人」という二者関係ではなく、地域の宝を大切に食卓に届ける運命共同体です。仲間が増えると、地域全体のイメージやブランド力アップになります。暮らしに1割農業を！皆さんも91農業、はじめてみませんか？

91農業のポイント

繁忙期の作業人数25〜30人を毎日調整

取材日の内訳は、家族5人、社員2人、パートさん15人、「91農業」の登録者は3人。

※パートさんの休日や人数に合わせ、91農業の手配で来る人数は変わる。日々の人数調整を外部委託することで、軽部さんは現場の仕事に専念できる。



収穫期を迎えたサクランボ



出荷基準に沿ってサクランボを選別



ミルクホイップに
農協牛乳使用



農協牛乳を使用した「ミルククリームコッペ」

ニッポンエール 「ミルククリームコッペ」 販売中!

全農は山崎製パン(株)、協同乳業(株)との共同開発商品として、ニッポンエール「ミルククリームコッペ(農協牛乳使用クリーム)」を開発しました。首都圏の小型食品スーパーまいばすけっとで、期間限定で販売しています。【営業開発部】

本商品には、農協牛乳を使用したミルクホイップを、ふんわりとしたコッペパンにサンドしました。

また、パッケージも「農協牛乳」を連想させるデザインとなっています。この機会にぜひお楽しみください。



4,070円
(税込み)

いわて純情セレクト 【遠野宮守】 ジュース8本セット

「たじまピーマン 食べて応援プロジェクト」始動

JAたじまと兵庫県本部は、たじまピーマンの栽培に欠かせない「かん水装置」の導入支援金を積み立てるプロジェクトを実施します。猛暑で水やりの負担が増しており、今年はケンミン食品(株)の協賛を得て取り組みを拡大し、生産者支援と消費拡大を図ります。【兵庫県本部】

本プロジェクトは今年で3回目となります。「かん水装置」の導入を支援するため、JAタウン「あつめて、兵庫。」での対象商品の購入1箱および兵庫県本部の直営レストラン「神戸プレジール」のコース料理をお召し上がりいただくごとに、1食につき各100円を支援金として積み立てます。

今年はケンミン食品の協賛で、JAタウンの対象商品に「ケンミン焼ビーフン」「おうちの野菜でもう一品 チャブチェ」を同梱するほか、量販店や直売所において食べ方提案を実施し、家庭での調理機会の創出と需要喚起を図ります。



岩手県遠野市宮守で収穫したミニトマト「アイコ」を100%使用したとまとジュース、にんじん県産りんごをミックスしたにんじんジュース、ほどよい酸味が爽やかなブルーベリージュース、赤黄2種類のりんごジュース、山ぶどうの原液にりんごジュースをブレンドした山ぶどうジュース、キウイフルーツをりんごとブレンドした爽やかなキウイジュース、黄色いミニトマト100%で無添加のイエローとまとジュースの詰め合わせです。

宮守の野菜や果実をぜいたくに使い、自然の恵みをぎゅっと詰め込みました。味の違いをお楽しみください。

(JAタウンはこちらから) <https://www.ja-town.com>
(お問い合わせは) ☐shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから



休刊のお知らせ
7月27日号は休刊いたします。
次号は8月3日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。